

Visa デビットカード 500 万枚を突破！

利用者実態調査から Visa デビットを現金代わりにスーパーやコンビニエンスストアなど
日常にお買物に利用することで 56%が「現金支払い」が減り、
40%が ATM に行く回数が少なくなったことが明らかに

ビザ・ワールドワイド(以下 Visa、代表取締役:安淵聖司、所在地:東京都千代田区)は、このたび楽天リサーチ株式会社へ委託し、東京都、大阪府、愛知県に在住の 20 代~50 代以上の方々 800 名を対象として Visa デビットカードを保有し、利用している方々の実態について定量調査を実施しました。Visa デビットカードは、発行枚数が 2017 年 4 月末時点で 500 万枚を突破し¹、今後ますます関心の高まりが期待される新たな決済手段です。本年 5 月に、日本銀行決済機構局が発表した決済システムレポート別冊シリーズ「最近のデビットカードの動向について」²の中でも、ブランドデビットカードの発行枚数残高が 4 年連続で増加していることや、決済件数や決済金額が 6 年連続で増加していることが報告されています。今回、Visa は、次第に増えてきている Visa デビットカードの利用動向について調査した結果、①即時決済であるため現金のように利用できる機能が評価され、②スーパー・量販店、コンビニエンスストアといった日常生活のお買物の場面でよく利用されている、さらに③Visa デビット保有後は現金での支払いや ATM に行く回数が少なくなり、現金の代替手段として Visa デビットが利用されている実態が明らかになりました。

主な調査結果は以下のとおりです。

- Visa デビットカードを申し込む際の、魅力的な機能として、61%の人が「使うたびに即時に利用金額が預金口座から引き落とされ、口座残高に反映される」を挙げている。カード申し込み後も、この機能が一番高く評価されているものの(42%)、「利用の度に確認の電子メールが届く」が申し込み前よりも 7 ポイント高くなり(18%)、実際に利用して Visa デビットの利便性を実感していることがうかがえる。
- 利用先で多いカテゴリーは日常生活の中で多く買い物をする「スーパー・量販店(40%)」、「ネットショッピング(40%)」、「コンビニエンスストア(31%)」。クレジットカードの利用先と比較すると、少額決済の多いコンビニエンスストアが Visa デビットの利用先として挙がっているのが特徴的で、男女比を見ると、ほかの利用先に比べ男性が多い傾向にあることが分かる。
- Visa デビット利用後に減少した支払い手段は「現金支払い(56%)」が最多。「ATM に行く回数が少なくなった」と回答した割合が 40%。Visa デビットが現金の代替手段として利用されていることが伺える。

① Visa デビットの魅力に感じる機能

Visa デビットカード申し込み前に魅力に感じていた機能は、「使うたびに即時に利用金額が預金口座から引き落とされ、口座残高に反映(61%)」「Visa が利用可能なお店で 24 時間 365 日利用可能(29%)」「利用可能な範囲は口座の預金残高の範囲内(28%)」であり、即時決済で残高の範囲内でしか利用できないという基本的な機能が

¹ 発行金融機関による報告に基づく

² <https://www.boj.or.jp/research/brp/psr/psrb170501.htm/>

評価されている結果となりました。申し込み後の魅力としても、「使うたびに利用金額が即時に預金口座から引き落とされる決済(42%)」が機能として高い支持を受けていますが、さらに、発行銀行の付帯サービスである「ポイントやマイル、キャッシュバックがもらえる(24%)」や「利用の度に確認の電子メールが届く(18%)」が利用前よりも魅力度の順位が上昇し、お得感やメール通知が届く安心感が魅力であると感じている利用者がいることが判明しました(表1)。

【表1: 魅力に感じた機能(保有前と後)】

順位	申し込み前に魅力に感じていたもの	カード保有後に、魅力を感じたもの
1	使うたび、即時に利用金額が預金口座から引き落とされ、口座残高に反映される(61%)	使うたび、即時に利用金額が預金口座から引き落とされ、口座残高に反映される(42%)
2	利用可能額は口座の預金残高の範囲内(29%)	ポイントやマイル、キャッシュバックがもらえる(銀行提供のサービス)(24%)
3	Visaマークのある店舗で24時間、365日利用することができる(28%)	Visaマークのある店舗で24時間、365日利用することができる(20%)
4	Visa加盟店のネットショッピングにも利用することができる(20%)	利用可能額は口座の預金残高の範囲内(18%)
5	ポイントやマイル、キャッシュバックがもらえる(銀行提供のサービス)(20%)	利用の度に確認の電子メールが届く(銀行提供のサービス)(18%)

② Visa デビットカードの利用先

今回の調査パネルの中で、クレジットカードも合わせて保有する方のサンプル数は741と9割以上を占めています。利用先を見るとクレジットカードとVisa デビットカードの利用が重複しているカテゴリーもありますが、旅行などの高額な出費や携帯通信費といった固定費はクレジットカードの利用が多い結果になりました(表2)。一方、Visa デビットは、対面取引ではスーパー・量販店やコンビニエンスストアなど身近な場所での利用が上位に入り、クレジットカードと使い分けがされていることが浮き彫りになりました。コンビニエンスストアでの利用は、男性が多いことが特徴的です(表3)。

【表2: Visa デビットカードとクレジットカード利用先】

利用先	Visaデビットカード (N=800)	クレジットカード (N=741)
1位	スーパー・量販店(40.4%)	ネットショッピング(62%)
2位	ネットショッピング(40.1%)	スーパー・量販店(57%)
3位	コンビニエンスストア(31%)	携帯電話などの通信費(51%)
4位	百貨店・駅ビル・専門店(25%)	旅行・レジャー(48.6%) 家電量販店(48.6%)
5位	家電量販店(24%)	百貨店・駅ビル・専門店(47%)

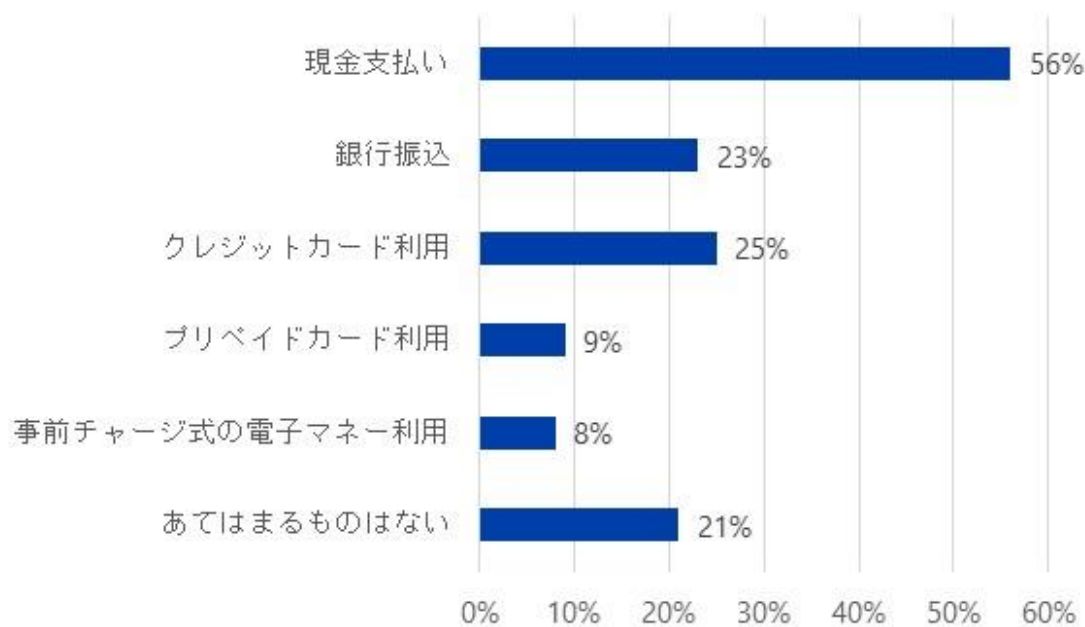
【表 3: Visa デビットカード利用先】

全体	男性	女性
スーパー・量販店 (40.4%)	52%	48%
ネットショッピング (40.1%)	48%	52%
コンビニエンスストア (31%)	61%	39%
百貨店・駅ビル・専門店 (25%)	48%	52%
家電量販店 (24%)	56%	44%

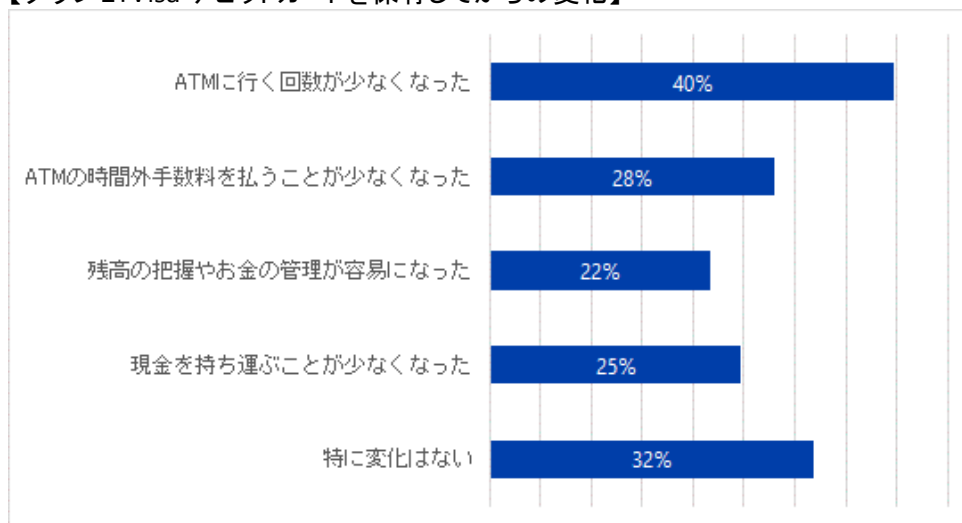
③ 現金代替手段としての Visa デビット

Visa デビットを保有してから減った支払い手段として「現金支払い」が 56%に上ることから(グラフ 1)、現金の代わりに Visa デビットの利用が選ばれていることが裏付けられる結果になりました。また Visa デビットを保有してから ATM に行く回数が少なくなったと回答した割合が 40%、さらに ATM の時間外手数料を払うことが少なくなったという回答者も 28%に上りました(グラフ 2)。性年代別に見ると男性の 20 代、30 代、50 代以上の方々の 6 割以上が現金での支払いが減ったと回答しており、Visa デビットが支払いの選択肢として定着しつつある様子がうかがえます。

【グラフ 1: Visa デビットを保有してから減った支払い手段(複数回答)】



【グラフ 2: Visa デビットカードを保有してからの変化】



今回の調査パネルに「できるだけ利用したいと思う決済方法」を尋ねたところ、「電子決済(44%)」「どちらかといえば電子決済(32%)」を合わせると76%が電子決済派という結果になりました。Visa デビットは、Visa カードが利用できる場所で、キャッシュレスの意向が高い方々に選ばれている決済手段と捉えています。

日本政府としても、先月に公表された「未来投資戦略 2017」³の一つとして10年後のキャッシュレス決済比率を今の2倍にあたる40%に引き上げる目標も盛り込まれるなど、キャッシュレス化を推進していくことが掲げられており、今後、日本でも現金以外の決済手段が利用可能な場面が増えることが期待されます。

Visa デビットカードは、既に国内外4,400万の加盟店でVisa クレジットカードと同様に利用可能であり、200の国と地域にある260万台のATMにて日本の預金口座から現地通貨を引き出すことができます。日本の目指すキャッシュレス化に向けて、現金の代替手段としてVisa デビットをより多くの方にご利用いただけるよう、引き続きVisa デビットの基本的な機能の訴求ならびに利用先の理解を図ってまいりたいと考えています。

「Visa デビットカード」について:

「Visa デビットカード」は、日本全国をはじめ、ネットショッピングや海外の加盟店などVisa クレジットカードが利用できる先で、24時間365日利用でき、お買い物時に銀行の預金口座からすぐに代金が引き落とされるカード。買い物の都度、銀行の預金口座から利用金額が引き落とされるので現金のように利用できます。また、原則として預金残高以上には使えないため、持っているお金以上に使いすぎる心配がありません。インターネットバンキングで事前に登録しておけば、ネット経由でいつでもどこでも利用履歴が見られて残高が把握しやすいため、安心してお買物を楽しむことができる点も魅力です。

調査概要

調査方法: インターネットリサーチ
調査対象: 20代～50代以上の男女でVisa デビットカード利用者
調査地域: 東京都、大阪府、愛知県
調査時期: 2017年6月16日(金)～6月20日(火)
回収サンプル数: 800サンプル
割付: 性別×年代(4区分)、各100サンプル
調査委託先: 楽天リサーチ株式会社

³ http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf

###

ビザ・ワールドワイドについて

ビザ・ワールドワイド(以下、Visa)は、世界規模のペイメントテクノロジーを提供する企業です。世界の 200 以上の国と地域において、迅速、安全かつ信頼のおける電子決済で消費者、企業、金融機関、政府機関を結ぶ役割を果たしています。毎秒 65,000 件を超す取引を処理できる VisaNet は世界でも最先端の情報処理ネットワークで、電子通貨の基盤であると同時に、消費者を詐欺や不正行為から守り、加盟店への確実な支払いを可能にしています。Visa の事業の特色として、カード発行、融資、会費や利息の設定を消費者に直接行わないことが挙げられます。Visa は取引先金融機関を通じて、デビットカードによる即時決済、プリペイドカードによる事前決済、クレジットカードによる事後決済といった多彩な選択肢を提供しています。詳しくは www.corporate.visa.com (英語サイト) または www.visa.co.jp (日本語サイト) をご覧ください。